

# ウィズコロナ・ポストコロナ社会での 働き方の変化と就活生の意識調査についての一考察

河野 美香子

## A Study on Changes in Work Styles and Job Hunting Attitudes in a With-Corona and Post-Corona Society

Mikako KAWANO

はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大で経済や社会環境にも多大な影響があり、人々の働き方や価値観がどのように変化しているのか。また、人生 100 年時代といわれ、これまで以上に長くなる個人の社会との関わりを持つことになる。やりたいことが見付からない学生が多い中、このコロナ禍で、若者たちの意識は変化したのかを明らかにし考察したい。

### I. 新型コロナウイルス感染症が社会に及ぼした影響

#### 1. 新型コロナウイルス感染症の発生

2019 年 12 月に中華人民共和国湖北省武漢市で感染が確認されて以降、世界中に広がりを見せている。世界各国が緊急事態宣言を発出するなか、日本政府も 2020 年 4 月に緊急事態を宣言し、不要不急の外出を避けるよう呼び掛けた。再び日本政府は 2021 年 1 月に 2 度目の緊急事態を宣言し、現在では、全世界の感染者が 1 億人を超えた。未だに収束が見込めない状況である。

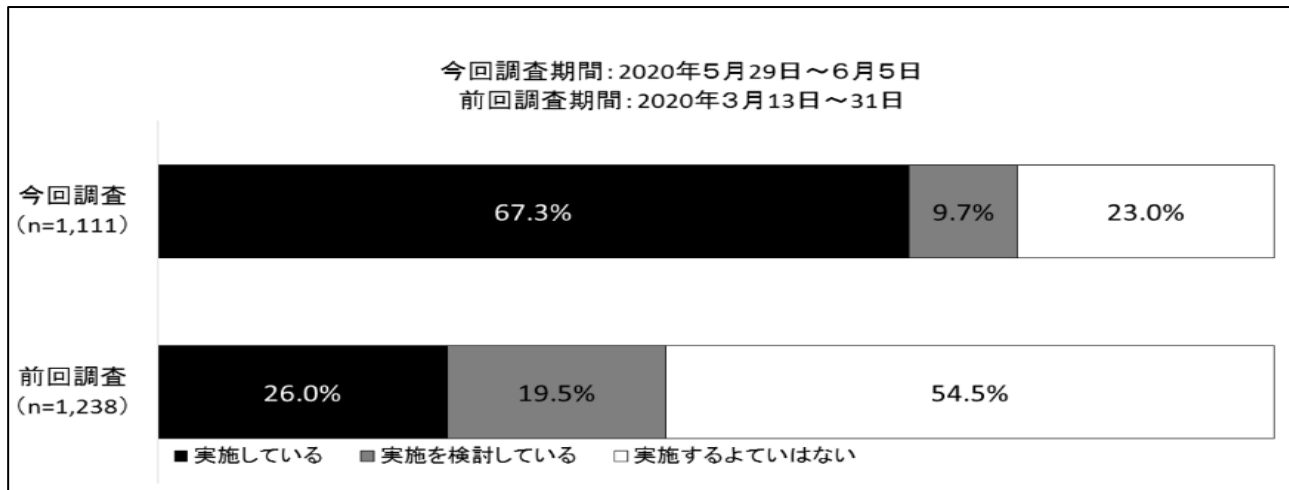
#### 2. テレワークの推進

日本で最初のテレワーク<sup>1)</sup>を導入したのは 1984 年で、日本電気（現在 NEC）であったと考えられている<sup>2)</sup>。1991 年 1 月には、総務省、厚生労働省、国土交通省、経済産業省の管轄である「日本サテライトオフィス協会」の名称で設立され「IT（情報通信技術）を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方であるテレワークを、広く社会に普及・啓発することにより、個人に活力とゆとりをもたらし、企業・地域が活性化できる調和のとれた日本社会の持続的発展に寄与する」との理念をかかげている。現在の「一般社団法人 日本テレワーク協会」に移行したのは、2013 年 4 月のことだった。

前述で述べた 2021 年 1 月の 2 度目の緊急事態宣言で日本政府は企業に対して、「テレワークを強力に推進する」とし、テレワークにより出勤者を 7 割減らすよう要請した。

#### 3. テレワークの現状について

テレワーク実施率の企業調査<sup>3)</sup>（図 1）は、2020 年 3 月が「実施している」26.0%、「実施を検討している」19.5%だったが、2020 年 5 月末～6 月にかけての調査では、「実施をしている」が 67.3%、「実施を検討している」が 9.7%と「実施している」が前回の調査から 41.3 ポイント増えた。



(出典: 厚生労働省「これからのテレワークでの働き方に関する検討会」資料)

また、この調査を行った結果、以下のことが分かっている。

- ・ 緊急事態宣言発令を挟んだ2回の調査を比較すると、テレワーク実施率は、従業員規模にかかわらず増加している。
- ・ 従業員規模が大きくなるにつれ、テレワークの実施率も高くなる傾向にある。
- ・ テレワーク実施率は業種によって差があり、小売業は低い。

#### 4. 変わる働き方

新型コロナウイルスの拡大をきっかけとして、図表2のように働き方が変化している。

表1 変わる働き方<sup>4)</sup>

1. 進化するオンライン会議	会議室に集合せず、オンラインでビデオ会議を行う。
2. 3密避ける通勤	公共交通機関を使わず、通勤を自転車や相乗り配車に変える。
3. ジョブ型雇用	社員がやるべき職務を会社が定め、成果に基づき処遇する制度である。
4. 広がるテレワーク	会社ではなく自宅などで働くテレワーク。通勤時間が減り生産性が高まると期待され、制度を見直す会社もある。一方では働く人の環境整備や不安解消が課題になっている。
5. 企業も郊外へ	2度目の緊急事態宣言が出て、再び在宅勤務を拡大する動きが出ている。会社に出勤することが少なくなり、オフィス面積を減らし、郊外に分散させる。

(出典: 日本経済新聞、「よくわかる ウィズコロナ時代 変わる働き方 著者改)

II. 就職活動生についての意識調査

1. 就職活動についての意識の変化

株式会社ディスコの調査<sup>5)</sup> (図表2) では 2022 年卒の就職活動生が、2021 年卒者に比べてどのようになるか、見通しを尋ねている。「非常に厳しくなる」という回答が、前年の 9.1% から 38.5%へと 4 倍以上も増加している。「やや厳しくなる」(55.2%) を合わせると 9 割以上 (計 93.7%) が厳しくなると予想している。この合計が 9 割を超えたのは、リーマン・ショック後の 2011 年卒者への調査 (2009 年 11 月調査) 以来だということだ。

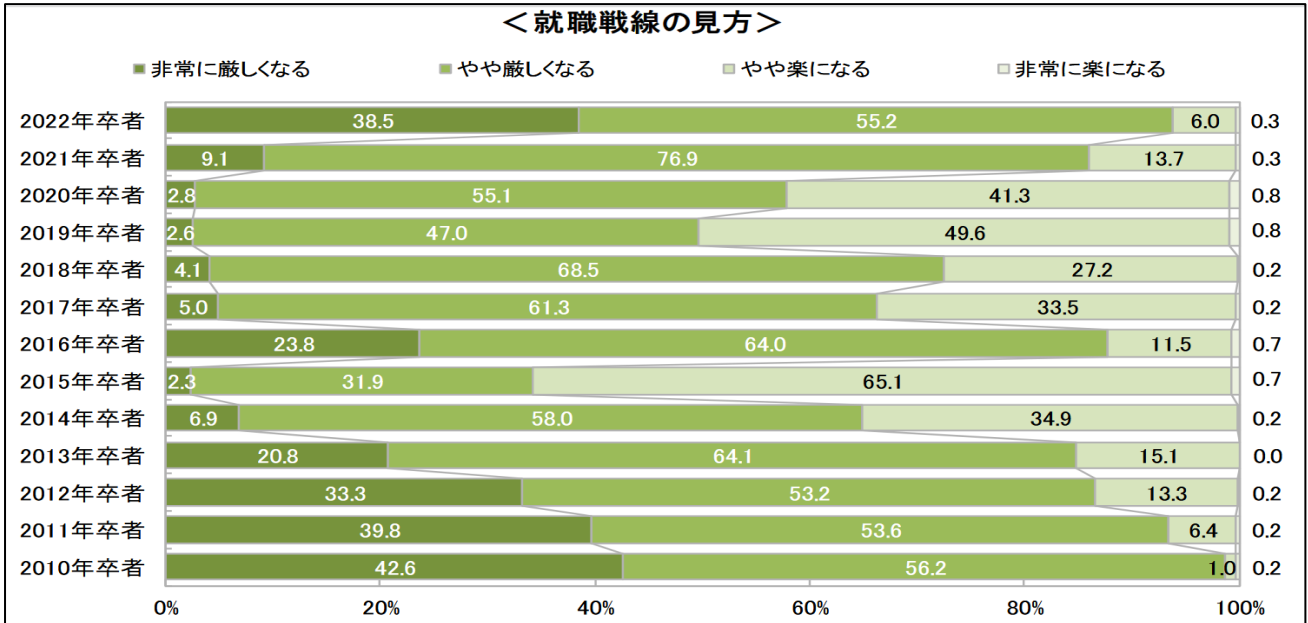


図2. 就職戦線の見方 (出典:株式会社ディスコ キャリタスリサーチ キャリタス就活 2022)

また、このコロナ禍で、就職活動の企業選びの軸として5項目について、こだわり度合いの調査<sup>6)</sup> (図表3) をみると「強くこだわる」が最も多いのは「社風・人」(57.2%) で、「ややこだわる」(35.2%) をあわせると 9 割を超える (計 92.4%)。「仕事内容」も 9 割超がこだわる と回答した (計 92.3%)。逆に、こだわり度合いが低いのは「企業規模」で、強くこだわる学生は 1 割程度 (11.8%)。なお、「給与・待遇」については、「強くこだわる」という数値が前年調査より 10 ポイント以上減少している。

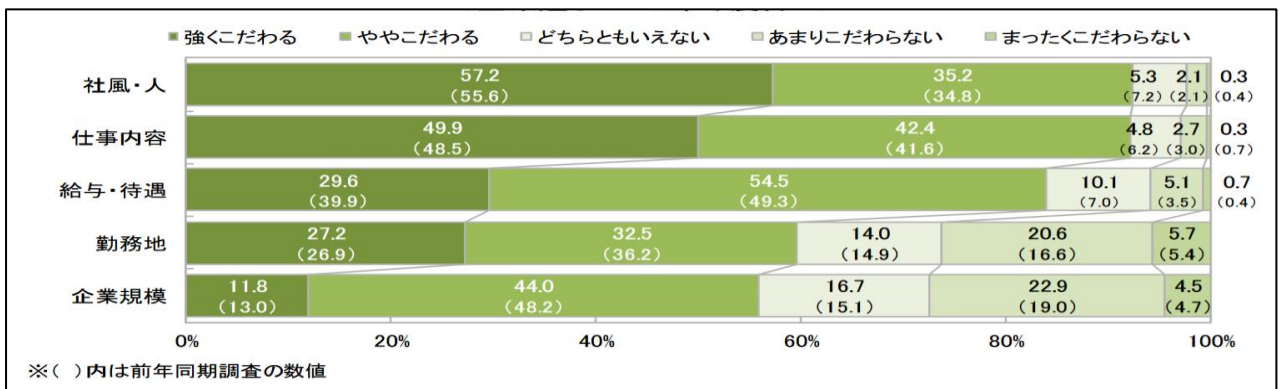


図3. 企業選びのこだわり度合い (出典:株式会社ディスコ キャリタスリサーチ キャリタス就活 2022)

## 2. 2022年卒就職活動生の意識調査

- (1) 対象者 短期大学 現代ビジネス科 (社会科学系) 1年生 14名 (男2名、女12名)
- (2) 調査期間 2021年1月26日～2021年1月27日
- (3) 調査手段 Google フォームにて回答 (全て記述式)
- (4) 倫理的配慮 学生に、研究趣旨と研究参加による不利益のないことを口頭説明し、提出により同意が得られたものとした。そのデータは研究者が厳重に保管し、学生の記述した内容から個人が特定できないよう連結不可能匿名化とした。

## (5) 調査内容

設問1	社会人のイメージ
設問2	就職先に期待すること
設問3	5年後はどのようなになりたいか
設問4	20年後はどのようなになりたいか

## (6) 結果

設問1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何事も自分から学びに行く姿勢を大事にしている。</li> <li>・自分の為ではなく人のために何かしたいと思える心がある。</li> <li>・収入が安定している、毎日仕事で忙しい。</li> <li>・責任が重い サービス残業が多い。</li> <li>・忙しい、休みが少ない、大変。</li> <li>・毎日働いている</li> <li>・厳しい、大変</li> <li>・大変そう。</li> <li>・楽しながら、誇りを持ちながら取り組んでいる人も多いような感じ、自分はこうなりたいと思っている。なんとなく堅苦しく、仕事に追われて余裕がない人もいそう。自分の社会的価値を良くも悪くも理解している。</li> <li>・ビシッとしていてミスをしてはいけない。怖い、厳しい。</li> <li>・時間に追われているイメージ</li> <li>・きちっとしていること</li> <li>・バリバリ働いている</li> <li>・働く。</li> </ul>
設問2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の性格や考え方に少しでも合うような雰囲気や仕事ができる場所。自分の能力や特性が少しでも活かせること</li> <li>・休日があること、給料が貰えること、なるべくその日に家に帰れること、 アットホームな人間関係</li> <li>・ある程度安定した雇用や収入、休日が保てること。また、良好な人間関係が築けること</li> <li>・良好な人間関係 ちゃんとした仕事内容</li> <li>・しっかり休みが取れる</li> <li>・休みは取れるか</li> <li>・自分が成長できる環境であるか。</li> <li>・人間関係が良く、働きやすい場所</li> <li>・自分がやりがいを感じられるか</li> <li>・沢山のことを学ばせてくれる</li> <li>・様々なことを学べるか。</li> <li>・ブラックではないこと</li> <li>・働きやすい環境</li> <li>・環境がいい。人間関係。</li> </ul>
設問3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事に慣れ始めて、少しでも会社の人やお客さんに信頼されるような人になりたい。</li> <li>・会社の即戦力となって働ける人材になりたい。ひとり暮らしを始めた。</li> <li>・先輩にきちんと仕事内容を教えられるようになりたい</li> <li>・重要な仕事も任せてもらえるようになっていきたい</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沢山のこと（知識）を進んで学んでいたい</li> <li>・ 就職していてバリバリ仕事をしている</li> <li>・ ちゃんと職業に就いて働いて欲しい</li> <li>・ バリバリのキャリアウーマン</li> <li>・ ある程度会社に慣れた上で、 仕事内や社会生活的な自立ができるようになってほしい。社内でも役割や立ち位置をある程度掴み、私生活では1人暮らしをしたい</li> <li>・ ある程度職場に馴染み、円滑に仕事、業務をまわせるようになりたい</li> <li>・ 仕事に慣れて私生活もある程度整えてほしい。</li> <li>・ 生活を楽しみながら無理せず働く。</li> <li>・ 働くということに慣れてほしい</li> <li>・ バリバリ働いてほしい</li> </ul>
設問 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分自身の仕事に誇りを持ち、その魅力についていろんな人に自分自身の言葉を通して伝えていきたい。また、結婚はせずにさらにその先を見据えて(今後の仕事・老後など)自分自身の力で生きていくための人生設計を確実なものにしていきたい</li> <li>・ 結婚できてれば良いかなあと思っています、してなくても何度か両親に旅行を兄弟みんなで計画、プレゼントしたい</li> <li>・ バリバリ働いて、自分の好きなことが両立できるようになってほしい</li> <li>・ 趣味を楽しみながらゆったりと人生を楽しむ。</li> <li>・ 家族の為に金を使えるようになってほしい</li> <li>・ 家族の恥さらしにならないようにしたい。</li> </ul>

### Ⅲ. 考察

新型コロナウイルスの影響により、企業のテレワーク導入率は、世界最先端デジタル国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画の政府目標であった 34.5%をはるかに上回り、67.3%までになり、働き方が大きく変わった。学生への意識調査では、90%以上が就職活動に対し厳しい状況にあると答えている。また、本学の意識調査では、社会人に良いイメージがあまりないようだった。就職先に期待することは、14名中7名が「職場の雰囲気」や「人間関係」について挙げ、「高い給与」というようなワードは見当たらなかった。印象的だったのは、5年後、20年後の将来についての間に「バイバリ働く」というワードが多く見られたことだ。

厚生労働省の新規学卒者の平成 29 年度離職状況<sup>7)</sup>は、事業所の規模が 500 人未満をみると現在も 7・5・3 現象といわれる、新卒で就職した人のうち大学では 3 割、高校では 5 割、中卒では 7 割が 3 年以内に退職をしている。短期大学では約 4 割である。

「やりたいことが見付からない」と思っている学生が、将来は「バリバリ働きたい」と考えている。今後の就職活動は、静能的な「マッチング」に加え、変化の方向を読み取り、動的にニーズに対応していくことが必要ではないだろうか。

#### <参考資料、参考文献>

- 1) 総務省 情報通信国際戦略局 情報通信経済室（委託先：(株)志木サテライトオフィス・ビジネスセンター）「テレワークの動向と生産性に関する調査研究報告書 平成 22 年 3 月」  
[[https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h22\\_06\\_houkoku.pdf](https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/linkdata/h22_06_houkoku.pdf)]（最終閲覧日：2021 年 1 月 29 日）1 ページ
- 2) 同上、3 ページ
- 3) 厚生労働省、第 1 回「これからのテレワークでの働き方に関する検討会」資料  
「テレワークを巡る現状について」参考資料  
[<https://www.mhlw.go.jp/content/11911500/000662173.pdf>]（最終閲覧日：2021 年 1 月 18 日）4 ページ

- 4) 日本経済新聞、「よくわかる ウィズコロナ時代 変わる働き方 (2020年07月13日 公開、2021年01月08日 更新)」  
[<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-workstyle/>] (最終閲覧日 2021年1月18日)
- 5) 株式会社ディスコ キャリタスリサーチ キャリタス就活 2022、「2022年卒 11月後半時点の就職意識調査」  
[[https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2020/12/202012\\_gakuseichosa\\_k.pdf](https://www.disc.co.jp/wp/wp-content/uploads/2020/12/202012_gakuseichosa_k.pdf)]  
(最終閲覧日 2021年1月29日) 2ページ
- 6) 同上、5ページ
- 7) 厚生労働省、新規学卒者の離職状況  
[<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html>] (最終閲覧日 2021年1月18日)